

平成29年度

長期研修者研究抄録



鹿児島県総合教育センター

平成29年度長期研修研究主題一覧

番号	所属校	氏名	研究主題
①	鹿児島市立西陵小学校	満尾 明希子	統合的・発展的に考察する力を育む算数科学習指導 －既習事項と関連付けて次へ生かす学習課題と発問の工夫－
②	鹿児島市立桜丘西小学校	有馬 美和	特別な支援を必要とする児童が「分かった」、「できた」という思いをもつ学習指導の在り方 －授業のユニバーサルデザイン化を通して－
③	鹿児島市立桜丘東小学校	磯部 広伸	数学的に表現し伝え合い、「深い学び」を実現できる子供の育成 －学びの深まりがある問題解決の過程の工夫－
④	指宿市立丹波小学校	吉田 竜也	自ら考え、判断し、行動する児童の育成を目指した道徳科授業の在り方 －重点的に指導すべき内容項目を関連付けたテーマ学習を通して－
⑤	霧島市立中津川小学校	福森 一真	自分の思いをより豊に伝え合う児童の育成を図る小学校外国語の授業づくり －音声と文字を円滑に接続するための工夫を通して－
⑥	鹿屋市立西原小学校	入佐 俊幸	社会的な見方・考え方を働かせた課題解決的な学習活動の在り方 －対話活動を深めるための工夫を通して－
⑦	長島町立鷹巣中学校	上ノ町 亮一	社会参画の基礎を育てる地理的分野の指導の在り方 －単元を見通した指導計画と学習課題，問いの工夫を通して－
⑧	始良市立加治木中学校	山口 祐介	主体的な学びを促進する中学校外国語指導の在り方 －課題設定と評価の工夫を通じた，コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指して－
⑨	東串良町立東串良中学校	久保菌 美穂	自分の考えを形成する力を高める国語科学習指導の在り方 －文学的な文章における学習を通して－
⑩	鹿児島県立武岡台養護学校	原 正憲	一人でいろいろな清掃ができることを目指した日常生活の指導 －課題分析を基にしたA児への指導・支援を通して－

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
1	算数	満尾明希子	鹿児島市立西陵小学校	統合的・発展的に考察する力を育む算数科学習指導 —既習事項と関連付けて次へ生かす学習課題と発問の工夫—	本研究は、統合的・発展的に考察する力を育むために、既習事項と関連付け、次へ生かす学習課題と発問の工夫について研究したものである。 この研究を進めるに当たり、統合的・発展的に考察する力を育むためには、児童が学習のつながりを実感する必要があることが分かった。そこで、「学習つながりマップ」の作成・活用を通して、既習事項と関連付け、次へ生かす学習課題と発問の工夫を行うこととした。「学習つながりマップ」を作成することで、教師は単元全体を通して統合的・発展的に考察させるためのねらいを明確にすることができ、どのような学習課題を設定したり、発問を行ったりするとよいか具体的に考えることができた。また、単元を通して「学習つながりマップ」を活用することで、児童は、既習事項と学習内容を関連付けて考えたり、関連付けた考え方を基に適用範囲を広げたりすることができた。 このようなことから、「学習つながりマップ」を作成・活用し、既習事項と関連付け、次へ生かす学習課題と発問の工夫を行うことは、統合的・発展的に考察する力を育む上で有効であることが分かった。
2	特別支援教育	有馬美和	鹿児島市立桜丘西小学校	特別な支援を必要とする児童が「分かった」、「できた」という思いをもつ学習指導の在り方 —授業のユニバーサルデザイン化を通して—	本研究は、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童が、「分かった」、「できた」という思いをもち学ぶ姿を目指し、教師の関わり方を大切にしたい授業のユニバーサルデザイン化について研究したものである。 具体的には、「教師の温かい関わり方」を大切にしたい授業のユニバーサルデザイン化についての考え方を整理し、授業における「教師の温かい関わり方」を、具体的な教師の姿として示した。 検証授業では、特別な支援を必要とする児童の困難さに応じた全体指導における手立てと個別の手立てを設定し、「教師の温かい関わり方」を大切にしたい授業を行った。授業後はビデオ分析を繰り返し、指導の結果として表れた児童の姿を基に、設定した手立てや教師の関わり方の有効性について検証した。 その結果、特別な支援を必要とする児童が「分かった」、「できた」という思いをもち学ぶ姿が見られるようになり、特別な支援を必要とする児童だけでなく、全ての児童にとって学びやすい学習指導になった。
3	算数	磯部広伸	鹿児島市立桜丘東小学校	数学的に表現し伝え合い、「深い学び」を実現できる子供の育成 —学びの深まりがある問題解決の過程の工夫—	本研究は、数学的に表現し伝え合い、「深い学び」を実現できる子供の育成のために、学習過程の質を高めることに重点を置いて研究したものである。 具体的には、まず、本研究における「深い学び」を「知識の関連付け」、「問題の発見・解決」、「生きた知識及び技能の習得」という三つの柱で整理した。次に、「学習課題の工夫」、「見通しの具体化」、「形成した考えの視覚化」、「『説明し深め合う場』の充実」、「振り返りの工夫」という研究の視点を立て、問題解決のそれぞれの過程で、学びが深まっている具体的な児童の姿を想定し、その実現のための教師の手立てを考え、授業を通して、研究の検証を行った。 その結果、問題を見だし、既習事項と関連付けながら、数学的な表現を用いて考えたり、納得するまで説明し合ったりする児童の姿が見られるようになった。

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
4	道徳	吉田 竜也	指宿市立丹波小学校	<p>自ら考え、判断し、行動する児童の育成を目指した道徳科授業の在り方</p> <p>—重点的に指導すべき内容項目を関連付けたテーマ学習を通して—</p>	<p>本研究は、「特別の教科 道徳」の完全実施を見据えて、個人が直面する様々な道徳的な問題に対して、「主体的に考え、判断し、行動・実践できる資質・能力」の育成を目指した道徳科授業の在り方について研究を進めたものである。</p> <p>そのねらいを達成するために、学校や児童の実態を基に複数時間の関連を図ったテーマ学習を構成し、重点的指導が展開できるように工夫した。具体的には、児童の思考の連続性、発展性を重視した指導計画を作成したり、指導のねらいに即して問題解決的な学習などの多様な指導方法を取り入れたりした。また、評価の視点を明確にしながら、児童の変容を確実に見取るための評価の工夫も行った。</p> <p>その結果、学習テーマに対して多面的・多角的に学びを深めたり、道徳的な問題に対して主体的に考え、判断し、自分なりの解決策を導き出したりする姿が見られるようになった。また、テーマ学習を構成することで、児童の変容も見取りやすくなり、道徳科の評価の基本的な考え方の一つである「大きくくりなまとまりを踏まえた評価」が可能になることも明らかになった。</p>
5	外国語活動	福森 一真	霧島市立中津川小学校	<p>自分の思いをより豊かに伝え合う児童の育成を図る小学校外国語の授業づくり</p> <p>—音声と文字を円滑に接続するための工夫を通して—</p>	<p>本研究は、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現と、文字を円滑に接続することで、児童のコミュニケーションが、より豊かな伝え合いとなることを目指した研究である。</p> <p>より豊かな伝え合いとなるためには、児童に、コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解させ、目的達成を目指した言語活動等を設定し、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現と、文字を細かな段階を踏んで接続することが重要である。</p> <p>その結果、コミュニケーションの相手に配慮する態度が育ち、十分に慣れ親しんだ外国語の知識を活用しながら、自分の考えを形成、再構築して、よりよく相手に伝える児童の姿が見られた。</p>
6	社会	入佐 俊幸	鹿屋市立西原小学校	<p>社会的な見方・考え方を働かせた課題解決的な学習活動の在り方</p> <p>—対話活動を深めるための工夫を通して—</p>	<p>本研究は、社会的な見方・考え方を働かせた課題解決的な学習活動の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、課題解決的な学習活動の過程において、社会的な見方・考え方を働かせた学習過程を作成し、社会的な見方・考え方を働かせるための発問計画を作成して、指導に当たった。また、本研究においては、課題解決的な学習活動を、対話活動を通して充実していこうと考え、「課題追究」の学習場面を中心に対話活動を設定した。</p> <p>対話活動は、グループによる対話活動を中心とし、対話活動の深まりを判断する基準を作成して指導に当たるとともに、評価へつながらるように工夫した。さらに、知識についても構造的に整理し、それを社会認識と学習課題の問いと関連付けることにより、児童が知識を習得できる学習活動の在り方について、授業で検証した。</p> <p>その結果、児童は対話活動を通して、課題解決的な学習活動において社会的な見方・考え方を働かせた姿が見られた。</p>

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
7	社会	上ノ町 亮一	長島町立鷹巣中学校	社会参画の基礎を育てる地理的分野の指導の在り方 — 単元を見通した指導計画と学習課題、問いの工夫を通して—	本研究は、日本の諸地域の学習から身近な地域の在り方について構想する活動を通して、社会参画の基礎を育てる学習を創造したものである。 まず、「地理的な見方・考え方の成長図」の構築と、学習課題、問いと習得する知識の関連を構造化した。次に、身近な地域の教材化を図り、段階的に知識を高めることで、諸地域と身近な地域が結び付くようにした。さらに、汎用的に活用できる単元構成のモデルを作成し、生徒の社会参画意識が単元を通して高まるか、授業を通して検証した。 研究の結果、諸地域と身近な地域を結び付け、身近な地域の問題解決に向けて主体的に思考し、社会参画意識が高まった生徒が増えた。また、地理的認識の成長と社会参画の基礎の育成に、単元構成のモデルの活用が有効であることが分かった。
8	外国語	山口 祐介	始良市立加治木中学校	主体的な学びを促進する中学校外国語指導の在り方 — 課題設定と評価の工夫を通して、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指して—	本研究は、課題設定と評価方法の工夫を通して、生徒の主体的な学びを促進する中学校外国語における学習指導の在り方を明らかにするものである。 具体的には、コミュニケーションの場面を十分に理解させ、目的を明らかにした課題を設定して、課題解決型の言語活動に取り組みせる工夫を取り入れた。また、生徒に学習を通じた成長を実感させ、見通しをもった学習に取り組みせるための評価方法の工夫を取り入れることで、生徒の英語への学習意欲を高め、主体的な学びに向かう態度を育むために授業を実践した。 その結果、課題設定の工夫により生徒の知的好奇心が高まり、学習した内容を活用した言語活動への取組を通して、課題を解決できたという経験から、英語でのコミュニケーションを行うことへの自信をもつことができた。また、学習の振り返りにより、授業を通じた成果と課題を明らかにし、見通しをもった学習に取り組むことができた。
9	国語	久保 美穂	東串良町立東串良中学校	自分の考えを形成する力を高める国語科学習指導の在り方 — 文学的な文章における学習を通して—	本研究は、「自分の考えを形成する力」を高めるために、「読むこと」の領域を中心に、文学的な文章を通して必要な情報を読み取り、根拠を明確にする国語科学習指導の在り方について研究した。 具体的には、自分の考えの形成を高めるために、まず、生徒の思考をつなぎ、認識・思考・表現させていく学習過程を構想した。次に、自分の考えを客観的に捉えるために、生徒の思考を可視化させる手立てを行い、自分の考えの根拠を明確にするシンキングツールを基にした学びのツールの工夫を行った。学びのツールを目的ごとに三種類に分類し、学習過程の中で自分の考えの形成の過程を可視化させ、授業を通してまとめた自分の考えがメタ認知できるように計画した。また、自分の考えの形成の指導事項が検証授業Ⅰから検証授業Ⅱへとつながるように実践した。 その結果、作品を通して自分の考えを形成する際に、自分の考えを支える根拠と自分の知識や体験を関連付ける生徒の姿が多く見られるようになった。文学的な文章を通して、学習過程の中で学びのツールを活用しながら作品の理解を図ることが、自分の考えの形成を高めることにつながることが明らかにすることができた。

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
10	特別支援教育	原正憲	鹿児島県立武岡台養護学校	<p>一人でいろいろな清掃ができることを目指した日常生活の指導</p> <p>－課題分析を基にしたA児への指導・支援を通して－</p>	<p>本研究は、指示待ちが見られる知的障害を伴う自閉症児に対する「日常生活の指導」において、一人で行動する力を育てる指導・支援の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、指示待ちが多く見られる清掃場面の行動を取り上げ、縦への発達と横への発達の双方を考え、雑巾掛け、台拭き、掃き掃除の三つの清掃を一人でできることを目指し、『『日常生活の指導』において、課題分析を基に分かりやすい環境の設定を行えば、児童は三つの清掃それぞれを一人でできるのではないか』という仮説の基、研究を進めてきた。</p> <p>教師が物的環境の意味や使い方を指導することで、児童は視覚的な支援を中心とした分かりやすい環境を手掛かりに、清掃への見通しをもち、三つの清掃それぞれスムーズに取り組んだり、一人でできるようになったりした。検証授業後は、設定した環境がなくても、一人でいろいろな清掃に取り組もうとする姿が増えてきた。</p>